

資料の再配置について

図 書 課

図書館では、既に報告したとおり、99年リニューアルしたINNOPAC/WINEを基軸として、中央図書館・各キャンパス図書館・各箇所の図書館・室をリンクした新たな全学的サービス体制を構築しつつあります。その第一歩として、昨年より、中央図書館・各キャンパス図書館の間での利用規則の平準化に着手いたしました。同時に「アクティブ・ライブラリー」構想の一環として、中央図書館に「デジタル・アーカイブ」および「フィジカル・アーカイブ」を設置し、資料・情報のより包括的な収集と提供を目指しています。

地下3階部分には昨年度、「自動化書庫システム」を設置し、本年4月に稼動を開始しました。これはWINE端末からの利用請求に応じて、自動搬送システムにより図書を出納するもので、約50万冊の図書を収容し、なおかつその随時利用を可能とするものです。図書館では、この自動化書庫システムの運用にあたって、中央図書館研究書庫の資料配置の大幅な見直しを検討しております。

1991年の中央図書館開館以来、分類切替えもあってきわめて評判の悪かった研究書庫の資料配置ですが、この機会に、なるべく利用実態に即して、利用者が不便を感じないですむような配置、利用者によりわかりやすい配置を検討し、実現したいと考えています。

現在、集密書架のない地下2階書庫には、おもに和洋・中朝の新分類(NDC)図書、旧分類(早稲田式分類)の洋書が配置されています。しかし、受け入れる本が年々増えつづけているので、かなり展開が苦しくなっています。

このたび地下3階に設けた自動化書庫は、図書を事実上死蔵するだけの倉庫としてでなく、つねに活用、移動が可能なアクティブな書庫と位置づけているわけですが、利用頻度の高い図書は利用者が直接アクセスできる地下1階・2階におくことは当然なので、現在地下2階にある図書のうち、利用頻度の比較的小さい資料を、地下3階の自動

化書庫に収納するということが当然必要になってきます。まだ詳細な計画をつめておりませんが、旧分類の洋書のかなりの部分を、地下3階自動化書庫に移動することを考えています。

同時に、早稲田大学図書館全体の共同利用という点に鑑み、地下3階へは、各キャンパス図書館の書庫からあふれた資料を収納することも当然必要になります。現在、各キャンパス図書館から中央図書館に移管する候補の図書を検討いただいています。これらについては、管理上からも、また共同利用という観点からも、キャンパス図書館固有の資産図書としてでなく、中央図書館の管理・利用規程の下に入ることとなります。

いうまでもなく、スペースには限界があり、すべての箇所、すべての利用者を満足させる再配置を実現することはおそらくできませんが、与えられた条件を生かし、最も合理的な図書の配置を考える所存です。

また、図書以上にスペースに悩んでいるのが雑誌ですが、雑誌については、現在のところ地下3階の適用は考えず、重複雑誌の調整や本庄分館へのバックナンバーの効果的配置、電子ジャーナルへの切替や関連大学等との分担収集・分担保存の実施といった方向で検討を進めています。

この問題に関しまして、ご意見・ご要望がありましたら、随時図書館までお寄せ下さるようお願い申し上げます。

(文責 図書課長・松下眞也)